



日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 **白駒妃登美**

松下村塾の母として

——松陰を支えた女たち・杉滝と杉文①



杉滝 20歳で長州藩士・杉百合之助と結婚。子供は梅太郎、虎之助(松陰)、千代、寿、艶、文、敏三郎。性格は温容、親切で勤儉に努め、馬を使って農耕にも従事したと伝わる。

【イメージイラスト】
アオジマイコ

江戸時代の三大私塾といえば、大坂の適塾(緒方洪庵)、九州・日田の咸宜園(広瀬淡窓)、そして言わずと知れた萩の松下村塾(吉田松陰)でしょう。この中で松下村塾だけは異質でした。なぜなら鎖国という国禁を犯し、海外渡航を企てて罪人となった松陰が恩赦により獄から出て、実家で謹慎処分を受けながら主宰したのですから……。

当然、家族の理解と協力的には成り立たなかったのがこの塾なのです。

そこで、今回は吉田松陰という日本史におけるヒーローを支えた、母と妹の家族の物語をご紹介します。

✿雑草集団の母

松陰が投獄されたのは、萩の野山獄。ここで松陰は孔子や孟子など中国の古い教えについて囚人たちに講義することで、獄中

のすさんだ空気を劇的に変えました。まさか獄中で教育者としての素質が花開くとは不思議なものです。

その後、松陰が実家の杉家で謹慎を命じられると、家族は彼を温かく迎えただけでなく、松陰が獄中で行っていた講義の続きを聞く会や読書会を開いたのです。どんな慰めや励ましの言葉よりも、松陰自身が講義する機会をつくるのが、彼の心を満たすと確信したのでしよう。

この時、父や兄など男性陣は孟子の講義を聞き、女性陣は『武家女鑑』等の講義から武家の女性としてのあり方を学んだそうです。松陰はこの女性組を「婦人会」と称したのですが、実はこれが、わが国初の「女性セミナー」だったという人もいます。

家族や親しい者たちに支えられ、松陰の熱のこもった講義が夜な夜な続けられました。すると、外に漏れ聞こえる松陰の声に